

2024年11月28日、「省エネ診断結果報告会」を開催しました

「省エネ診断」の結果がまとまりましたので、診断結果報告会を開催しました。

29項目の省エネ施策案がまとめられており、リコージャパン(株)から、2時間程度の時間をかけて詳細な説明を行いました。全ての省エネ施策を実行すると、初期投資も相応に必要ですが、現時点で明確になっている項目だけで年間数百万円のエネルギーコストの低減になることが分かりました。

ここでは29項目の省エネ施策案のうち、汎用性があり県内製造業者の皆さんに特に参考になりそうなものを下表にピックアップしました。

省エネ診断をもとにした改善施策提案
<p>① 圧縮エアを輸送する配管のエア漏れをチェック</p> <p>コンプレッサーからエア使用設備間のエア配管に対し、音響検知装置を用いてエア漏れを検出します。その後必要な修繕を施せば、10%程度の電力量削減につながる可能性があります。エア漏れは頻繁に発生しがちであるため、エア漏れ検査は定期的に行うことをお勧めします（検査機にもよりますが、購入すると10万円前後するため、レンタルまたは検査業者へ業務委託するなどの方法もあります）。</p>
<p>② 部屋を仕切って、必要な部分のみに空調を効かせる + サーキュレーターで温度ムラを解消する</p> <p>未使用空間が生じがちな広い室内は、カーテンやパーティションで仕切れば空調電力量が削減できます。またサーキュレーターを用いれば、効率よく空気の循環を促すことが出来るため、空調電力削減につながります。</p>
<p>③ 空調室外機に遮光対策を施す</p> <p>直射日光を浴びがちな空調室外機に（風通しの良さを維持した上で）日除けを設置することで、5~10%程度の電力量削減が期待できます。</p>
<p>④ 空調制御システム(EMS(エネルギーマネジメントシステム))の導入</p> <p>（設定した条件に基づき）全てのエアコンを自動運転制御できるシステムです。導入には相応の初期費用がかかり、また導入後の運用コストも必要になりますが、冷え過ぎや暖め過ぎをなくしつつ、デマンド管理(デマンド上限の削減)も自動で行えますので、年間10%以上の削減効果が期待できる可能性もあります。</p>

報告会に出席した森田社長からは以下のとおり、GXに積極的に取り組まれる旨の発言がありました。

「当社では次年度より改善提案制度を取り入れたいと思っていました。GXに関する取組も、同制度を活用しつつ進めたいと思います。」

「取り組むにあたっては総務課長を旗振り役に考えていますが、さらに2名を加えたチームとして進めてもらおうと考えました。」

「当社の年始式で発表する事業計画(当社の1年間の目標や行動計画をまとめたもの)に“GXに関する取組”も盛り込もうと思います。必要であれば、(GXの取組みに係る)キックオフミーティングの場も設けたいです。」

今回は、今回の診断結果をもとに今後の取組計画の策定を支援する予定です。